

複合柵設置ほ場における中型獣侵入防止対策 (浪江町)

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業
小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証
研究課題名 中型獣侵入防止対策の実証（浪江町）
担当者 渡辺明

I 新技術の解説

1 要旨

営農再開地域の果樹園では、サル向けに設置された複合柵のワイヤーメッシュ柵(以下、WM柵とする。)部分を、中型獣がすり抜けて園内を加害する事例が見られる。防獣ネットの追加設置等では効果が不十分なため、改善策を検討した。その結果、複合柵の外周部へ防獣用ポリプロピレンネット及びワイヤーメッシュ用電気柵取付け用碍子を施工・通電することで、中型獣の侵入及び被害を抑制することができた。

- (1) 既設の複合柵の外周部へ防獣用ポリプロピレンネット(トリカルネット)及びワイヤーメッシュ用電気柵取付け用碍子(メッシュ碍子 R100)を約0.5mの高さで設置した(図1)。
- (2) 設置にかかる時間と費用を算出した結果、100m当たりの資材費が約54,000円(表1)、作業時間は9.23時間/人であった(表2)。なお作業時間は、複合柵にネットを展張・設置する作業が大部分を占めており、複数名での作業により時間短縮が期待される。
- (3) 複合柵外周部に設置したセンサーカメラにより、イチジクの生育～収穫期間を通してアライグマ・タヌキ等の中型獣種の出没が確認されたが(表3)、施工資材の破損及びほ場への侵入、生産物への加害は確認されなかった。

2 期待される効果

- (1) 鳥獣被害対策における中型獣侵入被害防止の基本情報として活用し、加害獣種の侵入防止による被害抑制が期待される。

3 活用上の留意点

- (1) トリカルネット及びメッシュ碍子は2024年6月21日に設置し、以降継続して通電した。
- (2) メッシュ碍子を通した電線の電源は複合柵のバッテリーから延長して用いることが可能だが、供給量が足りない場合も想定されるため、事前に電源追加の要否を確認する。

- (3) 漏電が発生すると効果が十分発揮できないため、電線周辺的环境管理に留意する。
- (4) WM 柵の線径によってメッシュ碍子の種類が異なる(線径 3mm は S100、線径 4~6mm は R100 となる)。

II 具体的データ等

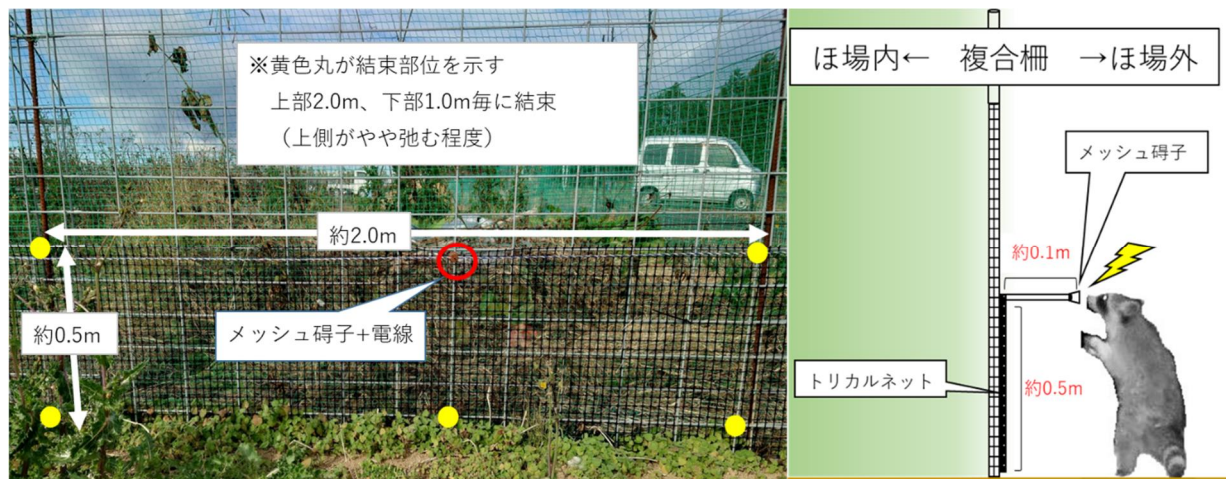


図1 複合柵外周への資材施工(トリカルネット+メッシュ碍子)

表1 資材費用(ゲート2ヶ所含む)

資材 ^{※1}	金額(税込)円/100m ^{※2}
トリカルネット(幅1m×長さ5m) ^{※3}	47,300
メッシュ碍子R100(1個/2m)	2,380
電線	3,025
ゲートハンドル(2個)	922
20mmフック(4個)	277
結束バンド	620
合計	54,524

※1 既設の複合柵の費用を除く

※2 2024年5月時の価格

※3 幅0.5mに裁断して使用

表2 供試資材の作業時間

項目	作業時間(h/1人)/100m
トリカルネット裁断	0.9
ネット張り	5.83 [※]
電線張り、補強	2.5
合計	9.23

※2人作業(1人がネットを引っ張り、もう1人が結束)でネット張りに要する時間の短縮が見込まれる。

表3 出没獣種調査(2024.6.21~11.30)

	タヌキ	アライグマ	キツネ	アナグマ	テン
6月	0	1	1	0	0
7月	19	29	0	2	0
8月	0	27	0	0	0
9月	1	9	0	0	1
10月	12	16	1	0	0
11月	28	8	0	0	0
計	60	90	2	2	1

※30分以内に連続して撮影された個体は同一個体とした。

なお識別可能な場合は別個体とした。

III その他

- 1 執筆者 渡辺明
- 2 実施期間 令和6年度
- 3 主な参考文献・資料 なし